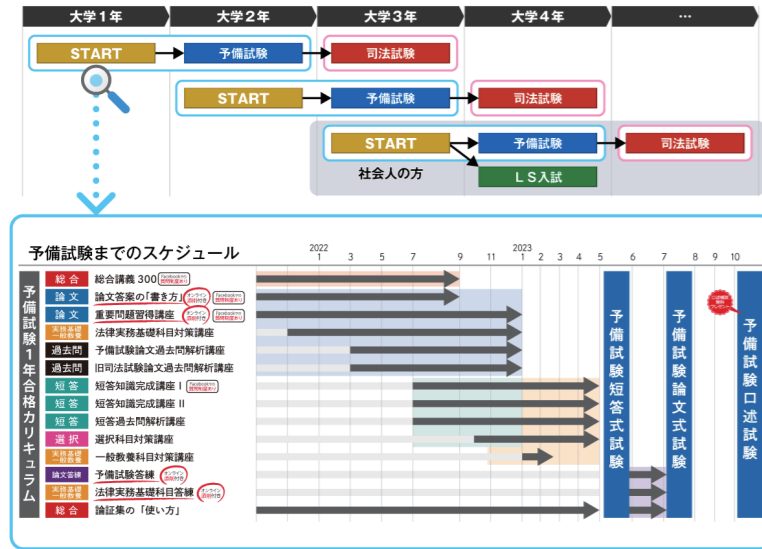


# [2023年合格目標] 予備試験1年合格カリキュラム

予備試験合格者は司法試験講座 20万円分プレゼント！本カリキュラムで司法試験合格までカバー！



合格に必要な知識、ノウハウを習得するための講座をすべて詰めこみましたので、アガルートアカデミーが推奨する順序で学習を進めていけば、法律知識がゼロの方でも約1年間の学習期間で2023年の予備試験に合格することができます。

選ばれています

## マネージメントオプション

通信指導

ラウンジ指導

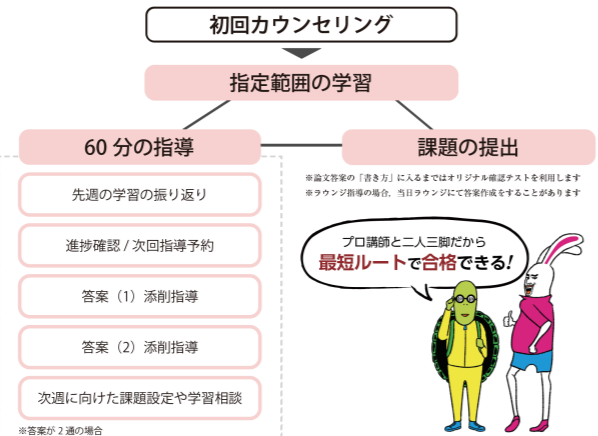
プロの講師が合格までしっかりと個別指導

**学習指導** 毎週 60分の指導を約70回

**答案作成** 毎回1~2通答案添削指導で最大150通の答案作成

**進捗管理** 約850時間の講義の進め方を講師が毎週個別に徹底管理

マネージメントオプション 利用者の学習継続率は **93%**



学習継続率

**93%**

合格率対全国比

**4.9倍**



慶應生に最適！

## アガルートアカデミー日吉ラウンジ

ラウンジとは

アガルートアカデミーの受講生に対して、講師が直接指導を行うスペースです。最大15席程度のデスクスペースと質問ブースを備え、学習に集中できる最適なスペースとなっております。講師や合格者スタッフが常駐し、直接指導を通じてマネージメントします。快適に学習を進めていただけるような環境を整えましたので、集中して学習することができます。

最寄りの駅からのアクセス

東急電鉄・横浜市営地下鉄 日吉駅西口から徒歩3分 イオンリカーの上ツインズ2階

住所

〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町 1-17-27 ツインズ 202 アガルートアカデミー日吉ラウンジ

※新型コロナウイルスの状況により閉室している場合がございます。最新の情報はアガルートアカデミーHPにてご確認ください。

何でも聞ける！

Zoom 電話 メール

# 受講相談受付中



# 司法試験を目指す塾生へ

アガルートなら  
予備試験  
最終合格率が  
全国平均

**4.9倍**

受けちゃえ  
司法試験



※アガルートアカデミー受講生の司法試験予備試験の合格率 (20.29%) は、「予備試験1年合格カリキュラム/マネージメントオプション、個人別マネージメントオプション」をお申込みいただき2020年の司法試験予備試験を受験された方 (69名) のうち、予備試験に最終合格された方 (14名) の割合で算出しています。  
※アガルートアカデミー受講生の合格率 (20.29%) は司法試験予備試験全体の最終合格率 (4.1%) を比較して4.9倍の合格率となっています。(2021年2月速報値)

予備試験合格者の声



予備試験合格者の声



慶應大学  
在学中合格者  
インタビュー

慶應生協からのお申込みがお得

キャンペーン価格と併用できます！

さらに慶應生協からのお申込みで **5%OFF!**

[https://text.univ.coop/wfm\\_bk/school\\_keiocoop\\_2/](https://text.univ.coop/wfm_bk/school_keiocoop_2/)

## 欲張らず重要な部分だけをおさえて勉強

— 法曹を目指したきっかけを教えてください。

法律をしっかりと勉強したいと考えたことがきっかけです。法科大学院に進学するくらいの法律知識を得たいと考え、アガルートの講座を受けようと考えました。

— アガルートとの出会いのきっかけを教えてください。

アガルートアカデミーでアルバイトをしていた司法試験合格した先輩からの紹介でした。勉強するならアガルートがいいよと言われ、アガルートの受講相談を受けることに決めました。受講相談に対応していただいたのが工藤北斗先生で、まさか代表の方が直々に対応していただけたとは思っておらず、3度見くらいしてしまっただけを覚えています。

工藤先生の話聞いて、決意その日に講座を申込みさせて

やはり全部網羅しないのは不安にもなりますが、1年目だからしょうがないと合格可能性を少しでも上げるために重要な部分は押さえる、他はもう割り切ると言い聞かせてやりました。

— 直前期はどのように過ごしていましたか。  
直前期は新しい知識を詰め込まず、今ある知識の精緻化に努めました。短答であれば、まとめた知識ノートや過去問で間違えたところを再確認する事をして、論文であれば規範をまとめたノートをひたすら回して重要論点が出た時に書き負けないように心がけました。

なので、心構えとしては完全に割り切った勉強をしていたため、「どこからでもかかってこい」というまでは言えず、かなり不安もありつつ試験に臨んでました。試験期間中も、直前期と同様の過ごし方をしていました。

— 受験した時の手ごたえと合格した時の気持ちは。

短答は、終わった後は合格した気分がしなかったのですが、普段の過去問でよくできなかった公法系の自己採点がかなりいい点数だったので少し手ごたえを感じました。

論文は、落ちたと思ってました。

1日目の手ごたえは十分にあったのですが、2日目の実務と民事系手ごたえとしては大コケしたと思ったので、さすがに実務取れないのは1年目で致命傷だと感じ手ごたえを感じませんでした。論文合格したときは大声で叫んでしまったくらいうれしかったです。

口述試験は、一番手ごたえがありませんでした。特に刑事系は過去問と全く異なり、聞いてきた罪もかなりニッチなところであったので、口述本番は本当に対策してないとこぼり出たせいか生きている心地がしなかったです。

口述受かったときは本当に嬉しかったです。

— 振り返ってみて合格の決め手は。それにアガルートの講座はどの程度影響しましたか。

合格の決め手は、マネージメントオプションであると思えます。

受講から予備試験論文までの前半の方は渥美先生、後半の方は石橋先生に主に指導していただきました。

渥美先生の指導では、かなり細かく丁寧に法的三段論法の書き方や重問等の問題演習をするコツを教えてくださいました。

石橋先生は、書いた答案だけではなくそれ以外の知識もバンバン聞いてくる口述試験のような少し厳しめの指導でした。

しかし、その質問の中で関係ない知識は全くなく、どうしたら答案がよりレベルアップするか、理解が間違っていた時に正しくごさり応用編のような指導内容でした。

もし、マネージメントオプションを追加しておらず先生方の指導を受けていなかったら、確実に落ちていたと思います。

— 法曹を目指したきっかけを教えてください。

私が法曹を志したきっかけは、高校3年生の時に受けた法律の授業にあります。

それまでは、法律について堅いイメージがあり、とっつきにくい印象がありました。

しかし、この授業で民法や刑法について学ぶことで、いままです馴染みのなかった法律というものが自分の生活の身近にあることに気づくことができました。

はじめのうちは、このような身近にあるものについての知識がないことは怖いことだと思い勉強を始めましたが、勉強を続けていくうちに、法律の奥深さを知ることができました。

特に、法律をそのまま適用するだけでは解決することができない問題が出てきたときには、自分の頭で法律構成を考えて、妥当な結論を導きます。

こうした過程から、無味乾燥したものだと思っていた法律が実はすごく人間味あふれたものに見え、興味深いと感じるようになりました。

このような、奥深い法律を扱った仕事に就けば、今まで以上の驚きや発見があると思い、法曹を志すようになりました。

— 勉強の方針と、どのように勉強を進めていたかを教えてください。

短答については、一般教養で点数を取れないことが分かっていたので、

法律科目で人よりも点数を取らなければならなかったことから、過去問だけでなく、総合講義300のテキストや短答のテキストを読み込むということもやっていました。

論文は、講師が指定してくださった重問の問題を中心に、重問を何周も解いていました。先輩がまとめノートを作成して勉強しているとのことだったので、自分もそれを見習ってまとめノートを作成していました。口述は、毎日過去問を出し合い、質問されたことにすぐ返答できるよう練習していました。

— アガルートとの出会いのきっかけを教えてください。

個別指導を受けられる予備校を探していたときに、ネットでアガルートの存在を知りました。

YouTubeにあがっている、合格者インタビューを見て雰囲気が入ったので、受講相談を申し込みました。

受講相談での対応も他の予備校と比べて丁寧だったので、マネオプを購入することに決めました。

— 直前期はどのように過ごしていましたか。

直前期だからといって特別なことはしておらず、今までやってきたことを続けていました。

試験日には開き直って、これだけ勉強したのに受からなかったら自分のせいではないと思いながら試験会場に向かいました。

— 受験した時の手ごたえと合格した時の気持ちは。

## 学生時代の授業で法律に興味を持ち試験に挑戦

短答の試験が終わった直後は、落ちた気がして落ち込んでいましたが、自己採点したところ受かってそうだったので、すぐに論文の勉強に切り替えました。

論文の試験後も落ちた気がして、次の日は落ち込んでいたのですが、遊びに行ったら気が紛れて、いつのまにか自分が論文を受けたという当事者意識がなくなっていました。

論文の合格結果を見たときも、すぐに口述の勉強をしなければならなかったのが、喜ぶ時間があまりありませんでした。

口述は、1日目に失敗してしまい、2日目は絶望的な気持ちで新浦安に向かいました。

しかし、2日目の民事はすんなり答えることができたので、多分大丈夫かなという気持ちでした。

INTERVIEW

### 田中 達基さん

Profile ※予備試験合格時  
慶應義塾大学法学部4年生  
1年で予備試験合格を勝ち取る。



2020年予備試験合格  
2021年司法試験合格

INTERVIEW

頂きました。その後、日吉ラウンジで指導を受けていたため、そこでお世話になった渥美先生や石橋先生と出会い、先生方から指導を受けさせていただきました。

— 勉強の方針と、どのように勉強を進めていたかを教えてください。

総勉強方針は、全体的に割り切っていました。

短答は、知識を網羅するのは1年で不可能であったため、基本的な知識は抑えつつ、わからない問題が出たらどっちの方が確からしいかという観点から、肢を選ぶ訓練を過去問を使ってやっていました。論文も同じで、重問に乗ってる論点の規範だけ覚えて、わからない論点が出たら趣旨から考えて論証をその場で構築するという考えのもと割り切っていました。

続きはこちら



### 予備試験合格者の声



続きはこちら

